

Sumitomo Pharma Diabetes Seminar 柏

2025年4月10日(木)19:00~20:20

WEB配信

エリアパート

PROGRAM

19:00~19:30

かしわ駅前糖尿病・甲状腺内科クリニック 院長

座長

安藤 真広 先生

講演

2型糖尿病・薬物治療戦略～イメグリミンの位置づけについて～

名戸ヶ谷病院 内科

小林 道 先生

全国パート

19:30~20:20

座長

順天堂大学医学部附属静岡病院 糖尿病・内分泌内科 教授

順天堂大学医学部附属静岡病院 予防医学センター長

野見山 崇 先生

講演 I

HbA1cの目標値を再考する:早期治療強化の重要性

山梨大学大学院 糖尿病・内分泌内科学教室 教授

土屋 恭一郎 先生

講演 II

高齢者糖尿病を見据えたイメグリミンの使い方
～100症例超の使用経験から考察する～

社会医療法人景岳会 南大阪病院 内科 副部長

川口 祐司 先生

事前
登録制

お申込みは
こちら



https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_qf96kPAnRUadmvVovGYq6Q

上記リンクより登録いただきましたら、事務局より当日視聴用URLの連絡が登録メールへ届きます

※ご連絡頂く「個人情報」は本会運営の目的のみに使用させていただきます

問合せ先

住友ファーマ(株) 山田佳史 yoshifumi.yamada@sumitomo-pharma.co.jp

◎千葉県糖尿病療養指導士/支援士認定更新のための研修会として区分B(2単位)が取得できます
※WEB視聴60分以上が確認できなかった参加者は、単位付与不可となりますのでご注意ください

◎日本医師会生涯教育認定講座 認定単位計1.0単位*CC76(糖尿病)0.5単位、CC73(慢性疾患・複合疾患の管理)0.5単位*が取得できます。視聴時間が短い場合単位が取得できません。視聴時間30分ごとに0.5単位取得できます

主催:住友ファーマ株式会社 / 後援:千葉県糖尿病対策推進会議・柏市医師会



エファ



エフメット



Sumitomo Pharma Diabetes Seminar

～日本人2型糖尿病における薬物療法の最適化～



講演Ⅰ 19:30～

HbA1cの目標値を再考する:早期治療強化の重要性

土屋 恭一郎 先生 山梨大学大学院 糖尿病・内分泌内科学教室 教授

2001年 神戸大学医学部 卒業
2007年 東京医科歯科大学大学院 博士課程 修了
2009年 コロンビア大学医学部 博士研究員
2017年 山梨厚生病院 糖尿病内科 医員
2018年 山梨大学医学部 内科学講座第3教室 講師
2022年 山梨大学大学院 糖尿病・内分泌内科学教室 教授

我々が目指すべき糖尿病治療は、合併症の発症・進展阻止、高齢化に伴う併存症の予防・管理、また、社会における糖尿病スティグマの除去を通じて、糖尿病のない人と変わらない寿命とQOLをもたらすことである。

血糖マネジメントにおいて、血糖正常化を目指す際の目標は「HbA1c6.0%未満」である。しかし、医療従事者側は、合併症予防のための目標である「HbA1c7.0%未満」を達成することで十分と考えていることも多い。昨今では多くの糖尿病治療薬が発売され、低血糖リスクが少なく厳格な血糖マネジメントも可能となってきている。

本講演会では、早期治療強化の重要性や膵β細胞機能の維持が示唆された大規模臨床試験などをふまえ、目指すべきHbA1c値について再考したい。



講演Ⅱ 19:50～

高齢者糖尿病を見据えたイメグリミンの使い方 ～100症例超の使用経験から考察する～

川口 祐司 先生 社会医療法人景岳会 南大阪病院 内科 副部長

2001年 奈良県立医科大学卒業
2001年 大阪市立大学医学部代謝内分泌病態内科学入局
2003年 景岳会南大阪病院勤務
2014年 睡眠センター長
2016年 内科副部長
2019年 透析センター長

2型糖尿病を耐糖能異常、糖尿病発症、診断という時間的な流れでみた際に、インスリン抵抗性は糖尿病を発症した時にすでにピークに達しており、インスリン分泌は発症初期から低下し、実際に糖尿病と診断された時には膵β細胞の機能は半分程度となっている。このため、糖尿病治療の初期段階でインスリン分泌低下とインスリン抵抗性を共に改善する治療が重要である。

イメグリミンはグルコース濃度依存性にインスリン分泌を促進する作用と、肝臓や骨格筋での糖代謝を改善する膵外作用という2つの作用が想定される。2型糖尿病患者に対して行われた国内第Ⅲ相臨床試験では単独投与および他剤への追加投与でHbA1cの低下がみられたが、実臨床下での報告は少ない。

そこで、本講演では100症例超の使用経験から高齢者糖尿病の治療も見据えた本剤の好適患者像を考察する。

主催:住友ファーマ株式会社 / 後援:千葉県糖尿病対策推進会議・柏市医師会



エクラ

エクメット

